

職員の皆さんへ

早くも6月を迎えました。

今や夏真っ盛りの平戸の魅力が倍増する季節となりましたが、一方で早くも熱中症などの危険性が懸念されるニュースも届いています。市民の皆様への注意喚起とともに、台風襲来や集中豪雨などによる自然災害にも早目の対応ができるような安心安全の体制づくりが不可欠です。達成率100%の自主防災組織やこの度立ち上がった防災士ネットワークとの連携をより緊密なものとし、災害からの不安を払拭し信頼できる行政推進に努力してまいりましょう。

さてこのところ平戸市ふるさと納税寄附額日本一の話が県内のみならず全国からも頻繁に聞こえてきており、その注目度とともに高い評価が寄せられています。これは平戸市が先行して進めてきた利用者目線によるシステム構築が大きく寄与していますが、その背景には優れた農林水産物や魅力あふれる観光資源などを上手に活用し、あらゆる機会や人脈を通して粘り強く発信してきたことなども功を奏しているものと思います。

そして何よりも「自分たちにもやればできる」という自信が市民レベルに浸透し広がりを見せており、これまでの価値に改良を加えたり、特に生産者の皆さんが新しい商品開発などにも意欲的な取り組みを見せていることなどが大きな要因であると痛感しています。

まさにこの意識改革こそが、人口減少を抑制する原動力であり、まちづくりや産業づくりの出発点でもあります。

平戸市ずっと住みたいまち創出条例に基づく各種施策を大胆かつ積極的に展開することで、この勢いを加速度的に高め、市民の皆様とともに活力あるふるさとづくりを実現してまいりましょう。

先月庁内において市内の『産学官金労言』の各界を代表する方々の参画により「平戸市総合戦略策定委員会」をスターとすることができました。これは向こう5年間の平戸市総合計画を補完する羅針盤でもあり、ここにこれまで取り組んできたそれぞれの事業やこれから肉付けしてさらにレベルアップしていくべき施策を重ねあわせながら先進的かつ魅力的な地域づくりを実現してまいりたいと思います。まさに地域間競争の正念場を迎えており、全国的にも平戸市は注目されている自治体の一つといえます。しかしながら私どもは常に現状に甘んじることなく油断なく、さらに貪欲にしたたかに、これからのふるさとづくりには何が不可欠か、公務員としてどのように立ち向かうべきかということを実際に考え英知を搾り出しながら、全力で業務遂行に取り組んでいただきたいと思います。

来る10月1日は市町村合併から10周年を迎える節目として記念式典を予定

しています。庁内横断的な「市制施行 10 周年記念式典実行委員会」を立ち上げましたが、市民をはじめ平戸市に深く関わってこられた多くの方々とともに、未来につながる意義深いイベントとして盛大にお祝いできる祭典となるよう努力してまいります。

また、先月から今月にかけて市内で各種団体の定期総会が開催されています。こうした機会に行政が取り組んでいる様々な事業についてご理解をいただく絶好のチャンスでありますから、来賓あいさつの内容はもとより配布できる資料等を用意するなど市民の皆様と常に情報を共有していくという姿勢を保ち続けていきたいと思っております。

本年から市内各地で活躍している地域おこし協力隊の隊員各位もそろそろ住み慣れてくるころです。でも中にはもしかしたら「こんなはずじゃなかったのに」と思っている隊員もいるかもしれません。そこは皆さんが折に触れて彼らのよき相談相手となっていていただき「やっぱり平戸市に来てよかった。これからも頑張るぞ！」と意欲と自信を身に付けてもらえるような連携と気遣いを心がけてください。

そして私たちの想像以上に地域に定着し、生活感とともに住民の間に根深く共感できるような地域の一員として頑張ってもらえるために職員皆さんの温かく巧みなリードに期待しています。

さて今年の 6 月定例会市議会は 15 日から開催される予定です。

補正予算の審議をはじめ市民生活にかかわりの深い施策など、その意義や必要性なども含めてしっかりとした説明責任を果たすべく準備に力を注いでいただきたいと思っております。議員各位から認められ評価されるような施策内容と議論で応えていきたいと思います。

これからも相変わらず忙しい毎日が続くと思っております。そうした労働環境を乗り越えるには、何よりも健康保持が大事です。これから梅雨時期の鬱陶しい湿度の高い日や暑くなりそうな日が続くことになるとは思いますが、熱中症などご家族を含む健康管理と天候不順下の交通安全にも十分気を配りながらともに頑張りましょう！

平成 27 年 6 月 1 日

平戸市長 黒田成彦